

中病だより



自衛隊中央病院
総務部総務課発行
平成30年度
第1号

新年度にむけて

「心新たに飛躍を」



自衛隊中央病院長
防衛技官 千先 康二

満開の桜のもとで心新たに新年度を迎えました。昨年度末に陸上総隊、教育訓練研究本部、水陸機動団が新編され、「統合運用」「真に戦える組織」として、よりリアリティをもった即応することが求められています。我が国を取り巻く安全保障環境は益々厳しく混沌の度合いを増しているように感じられます。首都直下地震など大規模自然災害もいつ起こってもおかしくない時代です。自衛隊中央病院は、最後に残った国の病院として、自衛隊の最終後送病院として、職員一同決意を新たにしております。

「衛生の訓練は病院で行う」を意識改革のスローガンに掲げました。十月に大量傷者受入訓練を実施、小野寺防衛大臣や山崎陸幕長をはじめ多くの御視察を受け、当院の多様な役割を御理解頂きました。十一月は官邸医療支援に対し内閣総理大臣から特別表彰を受け、地道な努力が報われたと思います。二月に防衛医学セミナー・防衛衛生学会を担任し、中病の存在感を示すことができました。今年度は、新病院建替えから十年を迎える次期中期に向け、準備の万全を図る重要な位置付けにあります。最終後送病院として安全で質の高い医療を維持し、教育訓練の中核として自衛隊衛生を牽引するためには、中病の多様な役割を御理解頂きながら、医療機器整備や人材確保を進めねばなりません。厳しい予算環境のなか、高額医療機器の更新は容易ではありませんが、強い覚悟をもって働きかけて参ります。更なる発展に向けた正念場と思っております。



↑ 中央病院周辺道路の三箇所道路標識を設置し、アクセスの利便性を向上させました。
→ MEDEVACによる患者航空搬送の状況（平成二十九年大規模傷者受入訓練）



年末には定期防衛監察が予定されていますので、文書管理、情報保全、労務管理などコンプライアンスを再確認し、円滑な院務運営に万全を期します。

陸幕長からは、「『衛生の実効性向上なくして陸自の任務完遂なし』の矜持をもて」と期待を寄せて頂きました。皆様の御期待に沿えるよう即応性を維持しながら、緊張感をもってあたりたいと思います。

新年度を迎え、『活気に満ち信頼される病院の創造』に向かい、職員一同が団結して院務に邁進する所存です。

平成三十年四月吉日

自衛隊中央病院長

防衛技官 千先 康二

新着任部長紹介

○診療技術部長

一海佐 永吉 広和

○（前職 自衛隊呉病院長）

○衛生資材部長

一陸佐 平山 健一

○（前職 中部方面衛生隊長）

○放射線科部長

一陸佐 藤川 章

○（前職 東北方面総監部医務官）

○麻酔科部長

一陸佐 太尾田 正彦

○（前職 防衛大学校衛生課長）

○第二歯科部長

一陸佐 津野田 亮

○（前職 自衛隊阪神病院副院長）

新着任課長紹介

○総務部医事課長

行（一）七 五百藏 裕昭

○（前職 航空装備研究所管理部 会計課長）

○総務部健康管理課長

二陸佐 中川 紀子

○（前職 自衛隊中央病院小児科 医長）

○衛生資材部衛生資材課長

二海佐 北森 茂樹

○（前職 自衛隊呉病院衛生資材部 衛生資材課長）

○衛生資材部臨床薬剤課長

二空佐 齊藤 和夫

○（前職 航空幕僚監部首席衛生官 付衛生官）

平成29年度防衛医学セミナー 及び第63回防衛衛生学会

『防衛医学教育におけるリアリティーの追求』

今年度のセミナーのメインテーマは「防衛医学教育におけるリアリティーの追求」と掲げました。これは、防衛副大臣が述べられた安全保障環境の厳しさを背景に、世界で頻発するテロや自然災害の発生等の各種事態に対して、自衛隊衛生として実行力をもって対応するための「救命ドクトリン」の早期実現を目指すためです。

特別講演では作家の北康利先生に「先人に学ぶ、志を持った生き方」と題し、衛生職種の隊員としての「志」、"Principle: 'モラル'"について松下幸之助らを例にご講演いただきました。さらに、教育講演では自治医科大学外科学教授のアラン・レフォー先生に

高度化、救命率向上等を目的とした衛生機能の強化の必要性"について述べられました。

自衛隊中央病院は、平成三十年二月一日(木)、防衛省A棟講堂(市ヶ谷駐屯地)において平成二十九年度防衛医学セミナーを担任・開催しました。この日は小雨が降る寒い一日となりましたが、防衛省・自衛隊の高官や衛生職種の隊員ら約六百八十名が参加しました。

セミナーの開催にあたり山本ともひろ防衛副大臣が挨拶し、我が国を取り巻く安全保障環境の変化に触れ、「自衛隊衛生に求められる役割の



↑セミナー長挨拶 自衛隊中央病院長 防衛技官 千先 康二

「Trauma Education For Defense Medicine」というテーマで英語によるご講演をいただき、セミナー初の試みとなる同時字幕通訳を行いました。いずれのご講演も衛生職種の隊員として必要な「心」・「技」に関するものであり、聴講した隊員らはメモをとりながら真剣な眼差しで聞き入っていました。

シンポジウムでは、「防衛医学教育の最新の状況と展望」救命率の向上に向けて」という題目で、防衛医学教育の現状及び将来ビジョン、爆傷研究やDCS (Damage Control Surgery) 教育に関する最前線、重症外傷救急診療の現場の実相、ICS (Incident Command System) など、最

新の知見や将来展望について理解を深めました。

また、二月二日(金)には三宿地区において第六十三回防衛衛生学会を担任・開催しました。学会には約九百名の衛生職種の隊員らが参加し、UNMIS衛生支援(四演題)、特別セッション(一演題)、ランチョンセミナー(一演題)、パネルディスカッション(六演題)、一般口演(三百七演題)を行い、活気溢れる学会となりました。特に、駐屯地体育館をメイン会場とした運営やランチョンセミナーは学会初となる試みであり、学会の盛況と自衛隊衛生のアピールに有効であったと評価しています。

現防衛大綱・次期中期において衛生機能の強化が示されるなか、自衛隊衛生に求められる機能と役割について認識の醸成が図れた、実り大きな防衛医学セミナー及び防衛衛生学会となりました。



↑セミナー会場(防衛省A棟講堂) 用意した座席を埋め尽くすほどの参加者をいただき、盛況なセミナーとなりました。



↑教育講演を行うアラン・レフォー先生 防衛医学セミナーで初の試みとなる通訳なしの英語による講演で、同時日本語字幕を行いました。

テロ対処等勉強会 開催

「多機関連携」の重要性を学ぶ

自衛隊中央病院では、平成三十年三月十四日(水)に日本大学危機管理学部 河本志朗教授をお招きし、テロ対処等勉強会を開催しました。この勉強会には、病院職員や部隊等隊員はもとより、世田谷区、警視庁、東京消防庁等の方々のご参加もいただいたの開催となりました。会の開始に先立ち、千先病院長はこれまで中央病院が積み重ねてきた訓練等に触れるとともに、「二〇二〇年に開催が予定されているオリンピック・パラリンピックに向けての準備や果たすべき役割を、行政、警察、消防、自衛隊等オールジャパンで考える必要がある。また、今回の勉強会を各関係機関と顔の見える良好な関係を築く一助としたい。」と述べられました。

勉強会では河本教授から『訓練が培う多機関連携』を演題としてご講演を頂きました。二〇一三年に発生したボストンマラソン爆弾テロ事件をテロ対処の成功例として紹介し、九・一一米国同時多発テロ発生から十年という歳月をかけた米国で行われてきた『多数傷病者事案(MCI)対応の準備状況』をご説明していただきました。MCIへの対応は事案対応に係る多機関連携が非常に重要であり、平素から訓練等によるキーパーソンの関係構築を行い、各機関が持つ法的権限、組織目的、組織文化、装備、能力、指揮命令系統、用語等の違いを理解・共有して連携要領を準備する必要があると述べられました。

～中央病院の質の高い医療を支え続ける～

最新の画像診断と高精度放射線治療

診療科紹介

放射線科

今回は、最新の画像診断と放射線治療で中央病院の質の高い医療を支え続ける放射線科をご紹介します。

放射線科を紹介してください

放射線科は、各診療科の医師より依頼を受け、CT検査・MRI検査・PET/CT検査・RI検査などの画像診断、がんの放射線治療、カテーテル治療などを行うIVRの3部門に分かれます。検査や治療は診療放射線技師や看護師とチームで行っています。

現在の診療態勢を教えてください

平成三十年四月現在、中央病院では、学会認定の放射線診断専門医三名、放射線治療専門医一名の計四名の常勤医と数名の非常勤医で診療を行っています。放射線診断専門医の中には、検診マングラフィ読影認定医（一名）、核医学専門医（二名）、PET核医学認定医（二名）、IVR専門医（一名）の認定も重複して受けており、より専門的な放射線科診療にも対応しています。また、放射線治療専門医はがん治療認定医も取得しており、院内の各診療科と連携し集学的ながん治療を提供しています。

中央病院の放射線科（診断）の特性について教えてください

中央病院の放射線科では、各診療科とも協力してマルチスライスCT（MDCT）で撮影したボ

リュームデータを用い、専用画像ワークステーションにて三次元画像再構成処理を行い、脳外科・心臓血管外科・循環器内科・呼吸器外科・肝胆膵外科・消化器外科など各診療科の治療方針決定や治療計画のための最新の画像診断を提供しています。
MRIは1.5T^{*3}（テスラ）と3.0Tの高磁場装置を有しており、検査部位や目的に応じて使い分け、最適な画像診断の提供に努めております。また、MRI対応埋め込み型デバイスに対応可能な体制も整備しております。
CT装置やMRI装置は他の自衛隊病院にも導入されておりますが、放射線診断専門医が常勤しない他病院を支援するため、最近導入された医療連携システムなどを活用して各病院で撮影された画像の読影コンサルテーションも行っております。



↑ PET/CT装置とスタッフ

放射線治療装置とスタッフ ↓



PET/CT装置は、平成二十一年・現在の新病院棟の開院時に防衛省内で唯一導入されました。
^{*4}FDGを用いたPET/CT検査は悪性腫瘍の病期診断や転移・再発の診断、心サルコイドーシスや大血管炎の診断などの保険適用疾患に対して検査を実施しております。これまでは、主に院内の各診療科や三宿病院等からの依頼を中心に対応して参りましたが、平成三十年五月以降、装置の共同利用をさらに推進すべく、広く近隣医療機関からの検査依頼も受け出来るように検討を進めております。詳しくは病院ホームページをご覧ください。

中央病院の放射線科（治療）では、どのような診療を行っていますか？

中央病院では、通常の放射線治療に加え、脳腫瘍や肺腫瘍などの

今後の展望について教えてください

放射線診断機器や放射線治療機器は日進月歩であり、新しい技術が次々に開発され普及が進んでいきます。将来をみすえた機器の更新計画を上申し、病院の各診療科を支えるため、最適な放射線科診療の提供に努めます。また、今後は電子カルテや放射線画像部門システムなどの換装・更新によりデジタル化がさらに進み、各自衛隊病院や医務室等とのネットワーク化がより深化するなど、全国の自衛隊員のシームレスな診療が可能になる日が近づいています。

【用語の解説】

- *1 PET（陽電子放射断層撮影）/CT検査
ポジトロン放出核種で標識した放射性医薬品を投与し、特殊なカメラで体内分布を画像化する検査。
- *2 RI検査（核医学検査）
放射性同位元素で標識した放射性医薬品を投与し、特殊なカメラで体内分布を画像化する検査。
- *3 T（テスラ）
磁場の高さを表す単位で、一般に高磁場ほど空間分解能や時間分解能が向上するが、さまざまな制限もある。
- *4 ¹⁸F-FDG
ブドウ糖に似た物質にフッ素18というポジトロン放出核種を標識した放射性医薬品。がんや炎症の診断に用いる。



↑ 若宮議員を交えての記念撮影

渡邊会長のご挨拶

三宿地区親睦会 開催

四月一日(日)に三桜会及び衛朋会の共催により、三宿地区で親睦会が行われました。今年、東京では三月十九日に開花が発表され、平年より九日、昨年より四日早く桜が楽しめる季節がやってきました。親睦会には三桜会及び衛朋会の多数の会員の方々が参加されるとともに、地元選出の若宮健嗣衆議院議員をはじめ、多くの都議会・区議のご臨席をいただき、盛況な会となりました。



↑ 入所生

一 病院長へ申告を行う職業能力開発センター入所生

職業能力開発センター 入所式

診療放射線技師養成所 放養所

平成三十年四月三日(火)、第五十六期生十七名の入所式を、人事教育局得津衛生官をはじめ、ご来賓等多数のご臨席のもと挙行いたしました。新入生はこれからの三年間、ここ三宿の地で教育訓練を受け、最終的には診療放射線技師として国家資格を得ることが必成任務となります。アルベルト・アインシュタインの言葉に「天才とは努力する凡才である。」とあるように、当養成所も学生の不断の努力を促すとともに、全力で支え育ててまいります。



平成三十年四月四日(水)、人事教育局小泉給与課長をはじめ、多数の来賓を迎え、千先病院長を執行官として第六十三期研修生の入所式を行いました。我々職員一同、研修が有意義なものとなる様、あらゆる角度から研修生を支えられる様に努めて参りますので、ご理解とご支援の程、宜しくお願いいたします。

職業能力開発センター

放養所

【平成29年度自衛隊中央病院職員の健康増進支援の全体像】

全職員	
定期の健康診断	定期の健康診断受検
項目	区分/内容
定期の健康診断判定区分(循・肝)	A (平常) Bb (要観察) Ba (要医療) C (要作業) D (要休業)
肥満・メタボリックシンドローム対策	健康教育(生活習慣病予防)ヘルスアッププログラム ① 受診・治療
禁煙対策	喫煙者への行動変容ステージ別介入 禁煙教育 ① 受診・治療の促進
健康管理強化施策	巡回健康相談 健康管理者への各種支援

【要医療者の受診確認】 (図①)

定期健康診断の循環器・肝臓検査の血液結果でBa(要医療)以上の者は、受診や治療といった医療の介入が必要となります。これらの者の受診状況については健康管理センター健康管理班が把握し、陸幕衛生部に結果の報告をします。

【健康管理強化対策】 (図④)

健診2ヶ月後に、全部所課事務室に巡回し、結果説明、各種計測、健康相談を行います。また、健康管理者には課長等会同を活用し、課ごとのメタボ該当者や喫煙者の通知、各事業の結果通知を行なっています。

【喫煙対策】 (図③)

喫煙者には世界禁煙デーに併せた禁煙教育の参加確認や、行動変容ステージ(やめたい気持ちの段階)を確認し、それに合わせたパンフレットの配付を行なっています。

メタボ予備群を対象に含めることで、健診で採血を実施していない35歳未満の者へも早期から介入ができます。

自衛隊中央病院職員の健康増進支援施策の紹介

保健管理センターでは、職員の健康増進支援施策に関する通達に基づき、様々な健康増進支援に取り組んでいます。今回はその内容の一部を紹介します。今回は定期健康診断後の事後措置に関する健康増進支援(特に生活習慣病関連)の全体像です。

【肥満・メタボ対策】 (図②)

メタボのみならず、メタボ予備群の該当者に対し、健康教育を実施し、さらに希望者には3ヶ月のヘルスアッププログラム(以下HUP)を実施しています。HUPは、医師、保健師、管理栄養士、臨床心理士が担当します。プログラム内容は、前後の診察、計測・採血、集団教育、各人の歩数・体重モニタリングによる生活の振り返り、認知行動療法です。今年度は3ヶ月で平均4%の体重減少という結果になり、半数の者がメタボ・メタボ予備群を脱却しました。

保健管理センター 〔保健相談班〕

メタボのみならず、メタボ予備群の該当者に対し、健康教育を実施し、さらに希望者には3ヶ月のヘルスアッププログラム(以下HUP)を実施しています。HUPは、医師、保健師、管理栄養士、臨床心理士が担当します。プログラム内容は、前後の診察、計測・採血、集団教育、各人の歩数・体重モニタリングによる生活の振り返り、認知行動療法です。今年度は3ヶ月で平均4%の体重減少という結果になり、半数の者がメタボ・メタボ予備群を脱却しました。